



園芸作物栽培についての

これからの対策と Q&A

園芸作物栽培についてのQ&Aとこれからの対策

今冬の前半は降水量が多く気温もやや低い傾向が見られるとされていますが、期間を通しては平年並みの冬の予報を出しています。ただ気象的には過去30年間の平均データと比較しての話ですし、日本海の海面温度は朝鮮半島の東側で高く、対馬暖流の流れも強く北極震動も活発なことから本県の気象としては近年の暖冬のレベルを想定しない方がいいのではなからしょうか。

◎圃場の管理

昨年来降水量が多く圃場のぬかるみは例年以上で、越冬作物にとっては厳しい状況となっています。加えて日照量も少ないため、生育も芳しくありません。よって、越冬作物の体力がなく雪で消えてしまう懸念が高まっています。今最も大事なことは圃場の排水を図ることです。雨上がりなどに圃場を見回り、溜まり水の排水促進を図ってください。溝からすくいあげた土砂は畝に上げて排水溝との落差をできるだけ取りましょう。

◎新年度に向けての取り組み

冬場は新年度の野菜づくりの準備期間です。12月までの野菜づくりの反省に基づいて次の点について計画を立てましょう。

1、連作の回避

連作が効かない作物はもちろんです。ほとんどの野菜について連作はしない方が無難です。栽培期間中は畑の状態を覚えておくような気になっているものですが、いざ作付けになると記憶は曖昧になっているものです。圃場の利用状況について春は6月、秋は10月の



圃場滞水は生育を阻害する。



トマトの連作によるネコブセンチュウ被害

状況を「農作業ノート」を作って記録しておきましょう。また、主な野菜の種まき時期、植え付け時期を記入し、おおまかな結果も書き添えておくをお奨めします。

2、圃場の土壌改良

野菜づくりで最も重要なことは良い土づくりです。野菜の栽培環境を良くすることは種蒔き以降の管理もしやすくなります。特にたんなん地域は粘土質土壌がほとんどで、耕耘しても細かな土はならず雨が多ければ泥状になりやすく、野菜栽培には扱いにくい土壌です。特に根菜類やイモ類には不適地が多くあります。こうした畑は山砂などを少しずつでも客土して土壌改良を図るとともに、排水性の良い土に変えていく必要があります。堆肥の施用も効果が上がりますが、有機物はいずれ土中で分解されてなくなってしまうので客土が最も効果がある対策です。

3、適地適作につとめる

現在栽培されているほとんどの野菜は国外にルーツを持っています。品種改良されてきたとはいえ生まれ故郷の気候・土質を好むDNAはしっかりと持っています。ですから栽培にあたってはその野菜の本来持っている性質を概略知っておくことが上手に栽培するコツとなります。世界八大原産地の中でも地中海沿岸は最も多くの野菜の原産地となっています。この地域は少雨、多日照で気候温暖、土質は石灰岩由来の乾いたアルカリ性の土壌です。

| 主な野菜の生まれ故郷 |  |
|------------|--|
| 日本         | ミズナ、ミツバ、アシタバ、セリ、フキ、ハス、ヤマノイモ、ワサビ                      |
| 中国 東アジア    | シソ、チンゲンサイ、ニラ、ネギ、ハクサイ、ナガイモ                            |
| インド 熱帯アジア  | キュウリ、ウリ、ナス、コンニャク、サトイモ                                |
| 中央アジア      | エンドウ、ソラマメ、メロン、ホウレンソウ、ショウガ、ダイコン、タマネギ、ニンジン、ニンニク        |
| 西アジア       | タマネギ、ニンジン、ニンニク                                       |
| 地中海沿岸      | ネットメロン、アスパラガス、カリフラワー、キャベツ、シュンギク、パセリ、ブロッコリー、レタス、カブ、牛蒡 |
| アフリカ       | オクラ、ササゲ、スイカ  |
| 北アメリカ      | インゲン、ズッキーニ   |
| 熱帯アメリカ     | シシトウ、カボチャ、トウガラシ、ピーマン、サツマイモ                           |
| 南アメリカ      | イチゴ、トウモロコシ、トマト、ジャガイモ                                 |

◎ハウスの保守

1月中旬から2月上旬は最も積雪の多くなる時期となります。最近では雪が少なく助かっていますが、本年は降水量も多目で推移していますので、気温の経過によっては大雪となるかもしれません。露地畑では休止期に入りますが、ハウスは周年栽培です。雪でつぶれないようにしなければなりません。近年バンドレスハウスが多くなっていますが、バンドレスハウスはほとんど張り張つてなければ強風で被害を受ける危険が高まります。寒い時期に張ったハウスや通常から緩みのみられるハウスでは被覆材のバタツキ具合の酷い所はバンドを掛けるなどの対策を取っておくようにしてください。

1月は積雪に備えなければなりません。夜中に冷え込んでくると着雪しやすくなります。ハウスサイドが一杯になって屋根面まで雪が載ってきたら20cmを超えないよう除雪管理してください。冷え込む夜間は25mに1台の割合で家庭用ストローを点けておけば屋根面に雪が固結することはありません。なお、ハウス内を突き上げ支柱で補強することは非常に有効ですが柱間は3mを超えないように設置しましょう。

◎ハウス軟弱野菜の管理

気温が低下してくるとハウスを密閉しがちです。密閉すると空気が淀み湿度が上がりますので、べと病や灰色カビ病など糸状菌(カビ)による病害が蔓延しやすくなります。晴天時は換気に努め湿度の低下を図りましょう。ハウス周辺の水はけも整備しましょう。



突き上げ支柱を設置することで耐雪力は向上します。

5、順調な初期生育を図る

野菜栽培は生育盛期が適温帯となるよう栽培するため、春夏野菜は寒い時期に、秋冬野菜は暑い時期と野菜にとっては不利な環境で育苗・定植を迎えます。従ってこの時期に適切な管理が行われないと、生育に障害が発生し後々まで影響してしまいます。生育初期にはそのうち天候も良くなるだろうと手抜きしないで、まめに保温、遮光と適切な水遣りを行うよう心がけましょう。



飛来性のウリハムシは難防除害虫である。



ホウレンソウのべと病。葉裏に灰色のカビが見られる。

| 苗処理剤 | 主に春夏野菜 | モベントフロアブル<br>アクタラ顆粒水和剤 | ジュリボフロアブル |
|------|--------|------------------------|-----------|
|      | 主に秋野菜  | プレバゾンフロアブル5            |           |



碎土率を良くし初期活着を図る。

堆肥づくりは気温が低下している時期で醗酵熱も上りにくい時期となっています。特に水分の多い家庭用ミミヤ野菜残渣などは乾燥したワラやモミガラ、落ち葉など水分を吸収してくれる材料とともに積み込み適正水分に保つことが重要です。

◎堆肥づくり